

■「タックル自慢、夏に鍛える－1部6校のLBたち」②

経験豊富がそろそろ－釧路公立大

8月4日午前9時、釧路公立大から自転車で10分ほどの新釧路川の河川敷に設けられた芝のサッカー場に、釧路公立大アメフト部員たちが集まった。定期試験期間中も土、日曜日は練習を欠かさない。25日開幕の北海道学生選手権では初戦で北海学園大、第2戦で北海道大と対戦する。目標の初優勝に向けていきなり迎える勝負所に、チーム作りは急ピッチだ。この日は若手OBを招集し、社会人チームのクルムス・イーグルスの選手も迎え、実戦練習に磨きをかけるメニューだ。

ベストイレブンWRを擁して攻撃力が注目されるゴールデンクレインズだが、守備力強化も目標達成には欠かせない。4-3守備の要となるのがLB陣。先発は山埜涼太郎（4年、北見北斗高）、中西亮太（3年、旭川商業高）、佐々木葵空（3年、秋田・角館高）の経験豊富な3人がそろった。主将でもある山埜は「素早いブロック処理から、RBへの2人がかりの確実なタックル。ボールへの執着心」と、LB陣のモットーを披露した。そのために、相手OLに当たり負けしないこと、DLとの連携プレーにも力を注ぐ。「練習ではとにかくブロック処理」と山埜が力を込めた。パス守備も、「4年生4人で固めたDBを生かすために、LBが相手レシーバーにプレッシャーをかける」と、こちらもチームワークを強調した。

1部3シーズン目となった昨季。忘れられない試合がある。26点のリードを逆転されて敗れた北海学園大戦だ。最終Qに3TDパスを許して惜敗した。山埜主将ら上級生にとり、この試合の悔しさが今季の原動力でもある。6月16日の北海学園大とのオープン戦では3-20と敗れたが、前半は3-7の接戦。DL北中春丞（3年、鳥取・倉吉東高）がQBサックを決めるなど「秋に向けた収穫もあった」と山埜主将。LB陣も、テーマのブロック処理で収穫と課題を確認できた。「ブロック処理の精度を高めて、ハードタックルを決める。目標は優勝ですから」と山埜が言い切った。（塚田博）



豊富な試合経験で活躍を誓う左から中西、佐々木、山埜のLB陣